

カリキュラム・マップ(ディプロマ・ポリシーに対する科目の位置付)

学部名	心理学部	学科名	子ども発達教育学科
-----	------	-----	-----------

子ども発達教育学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	(1)子どもの心理発達特性や障害児の心理等を十分に理解し、子どもの主体的な学びを援助する専門知識を修得するとともに、一人一人の子どもにとって、よりよい保育・教育環境を計画的に構成することの意義を十分理解している。(2)子どもの保育内容・教育内容に関わる専門知識を身につけ、それらの相互補完的な複合的な理解とともに、子どもへの直接的な発達支援や、保護者への子育て支援の専門知識を修得している。
DP2	思考・判断	講義や演習、実習を通じて、自らの子ども観や保育観・教育観を形成するとともに、形成の経緯を振り返ったり、他者の子ども観や保育観・教育観と比較するなど、より望ましい子ども観や保育観・教育観を形成するための判断力を身に付けている。
DP3	技術・行動	保育・初等教育にかかわる各種の専門援助技術を身につけ、積極的に子どもや保護者と向き合い、専門職者としての責任を自覚した行動がとれる。
DP4	態度	保育・初等教育に携わる者として、子ども一人一人の個性や特性を尊重し、その成長発達を見守り、援助する姿勢を持つと同時に、常に専門職者としての知識や技能の向上に意欲を持ち、また人間としての自らの自己成長に努力する態度を身に付けている。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
吉備国際大の学び	吉備国際大から世界へ		2	1	この科目の到達目標として、受講生は、本学の所在地である備中高梁という場所が地域文化圏「吉備の国」としてどのような文化的・歴史的特色があるのかを十分に理解し、さらに、世界の文化や社会の多様性を学ぶことによって国際人となるための基礎を身につける。 毎回異なる講師によるオムニバス形式によって実施される。備中高梁(吉備の国)の自然環境、歴史、精神風土についての基礎知識する。さらに、日本と世界とのつながりについてグローバル化の意味とその影響に注目しつつ、世界各地の社会・文化事情の解説を通じて、ローカルな日常世界とグローバルな国際社会との関係を考え、多文化共生の基本的な意義と課題について理解する。	◎			
		地域学概論	2	1	地域の諸問題については、高梁市の各部局より講師を招き高梁市の現状と今後の問題点を教授して貰うとともにグループ討議を行い、積極的に問題解決能力を養う。 また、地域でボランティアを行っている学生より体験談を聞き今後の地域社会への貢献について考える。	○	◎		
		地域貢献ボランティア	2	2	キャリア教育の一環として社会人基礎力を身に付けるために、地域貢献ボランティアをおこなう。具体的には、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学んだのち、地域から要請を受けたボランティア活動を10コマ分(20時間以上)行なう。ボランティア活動は、ボランティア活動予定表(5月～1月末まで)から活動時間合計が20時間以上になるよう選択し、活動をおこなう。その後、ボランティア活動報告書(1,000字以上)を作成し、グループに分かれ発表を行う。			◎	○
キャリア教育科目	キャリア開発	キャリア開発Ⅰ	2	1	大テーマ:大学生生活になれる、学びの習慣をつける 到達点:生活リズムができ、落ち着いて学べる環境をつくること。教員や先輩、留学生、同期入学生とのコミュニケーションはとれるようになること。				◎
		キャリア開発Ⅱ	2	3	自己の職業適性を発見する力・業界職種等を分析する力を身につけ、自分に適した職業進路を具体的に選択する。また、就活実践のために具体的能力を訓練し発揮できるようにする。そのため、一般社会で身につけておくべき自主性や責任感、社会人としての一般常識や教養、分別、協調性や能力を再確認し実質的なものにする。		○	◎	
総合A群	情報教育科目	情報処理Ⅰ	2	1	高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で大学生に必要とされる必要最低限のコンピュータスキルを身につけさせることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように指導し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得させる。 本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。		◎		
		情報処理Ⅱ	2	3	コンピュータ、オペレーティングシステム、アプリケーションソフトおよびネットワークの基礎概念や社会情報学の基礎、セキュリティ保護の考え方等、いわゆるリベラルアーツとしての現代のコンピュータリテラシーを理解させることを到達目標とする。 情報処理Ⅱにより情報処理の基礎やオフィスアプリケーション操作を一通り理解した学生が、さらにコンピュータを活用した社会に適応する上で必要な概念と関連技術・用語について理解を深めるためのものである。 なお、本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。		◎		
言語教育科目	英語	英語Ⅰ	2	1	この授業では高校までの主な文法事項は確実に理解でき、それに付け加えて簡単な日常表現の英文を母国語に近いニュアンスで使えるようになるよう指導します。実力を今一度強固なものにするために文法的な復習、単語なども確認しますが、それと同時に聞き取りの実力、クラスによってはシャドーウィングなどを取り入れ、読むには実力的に問題なくても話せる力に近づけるよう指導します。そうすることで高校の英語とは一ランクが上の実力をつけるようにします。予習、復習を義務づけ実力がついたと実感できる程度に自分なりの意識を持ちながら授業に臨んでいただきたいと思っています。	◎			
		英語Ⅱ	2	1	この授業では英語もさることながら内容にも目を向けて大学生としてどのようなことに今後取り組んでいかなければならないのかを英語を通して考えていってもらいたいと思います。前期同様に高校までの主な文法事項は確実に理解出来、それに付け加えて簡単な日常表現の英文を母国語に近いニュアンスで使えるようになるよう指導します。内容は健康問題から温暖化問題など、新聞やテレビでも扱われている内容が多く興味を湧かせると思います。是非ともニュースには常に関心を払っておい下さい。授業内容の理解の手助けになるとと思います。	◎			
		英語Ⅲ	2	2	これまでに学んだ英語の基礎を定着させながら、さらに多くの重要表現を身につける。まとまった量の英文の内容を正確に理解できることを目指し、長い文章が音読で理解できるようにする。	◎			
		英語Ⅳ	2	2	これまでに学んだ英語の基礎を定着させながら、さらに多くの重要表現を身につける。まとまった量の英文の内容を正確に理解できることを目指し、長い文章が音読で理解できるようにする。	◎			

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	フランス語Ⅰ	2	1	「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」をテーマとし、大学で始めて第二外国語としてフランス語を学ぶ学生が、初歩的なコミュニケーション技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ。日常的によく使われるフランス語の例文を覚えて話せるようになることを目標とする。	◎			
		フランス語Ⅱ	2	1	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(基礎編)。フランス語を学び始めて半年経った学生が、半年後に「実用フランス語技能検定5級」を受験できるレベルに到達するために、日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、読み、聞き、話すことができるようにする。	◎			
		フランス語Ⅲ	2	2	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前編)。フランス語技能検定5級を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎			
		フランス語Ⅳ	2	2	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・後編)。「実用フランス語技能検定5級」を受験できるレベルが到達目標である。そのために、日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、読み、聞き、話すことができるようにする。	◎			
		ドイツ語Ⅰ	2	1	ドイツ語の単語と文を正しく発音するためのルールを知り、動詞や名詞を中心にした基礎的な文法を学習する。そのことによって「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話に必要な語彙と文を、読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)」5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な第一歩となっている。	◎			
		ドイツ語Ⅱ	2	1	日常的な会話表現に触れながら、ドイツ語の基礎的な文法事項についての学習と理解をさらに深める。そのことによって「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、平易な日常会話での様々な応答表現が読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)」5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な第一歩となっている。	◎			
		ドイツ語Ⅲ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	◎			
		ドイツ語Ⅳ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	◎			
		中国語Ⅰ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(入門編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅰでは、初めて中国語を学ぶ学生諸君を対象に、聞く・話す・読む・書くといった、総合的な中国語力の基礎づくりを目標とする。まず発音を完全にマスターすることを旨とする。その後、発音の練習と並行して、初級文法、簡単な日常会話、応用のきく文型などを習得する。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	◎			
		中国語Ⅱ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(基礎編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅱでは、前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことを目標とする。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	◎			
		中国語Ⅲ	2	2	中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前編)する。中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。	◎			
		中国語Ⅳ	2	2	会話を中心とした日常レベルの中国語を発音したり聞き取ったりできるようになる。	◎			
		日本語ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎			
		日本語ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎			
日本語ⅡA	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎					
日本語ⅡB	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎					

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	応用日本語ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎			
		応用日本語ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎			
		応用日本語ⅡA	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義ではとりわけN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎			
		応用日本語ⅡB	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義ではとりわけN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎			
		日本語研究ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎			
		日本語研究ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎			
		日本語研究ⅡA	2	2	これから始まる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。履修時にプレースメントテストを実施し習熟度別(初級・中級・上級)クラス編成を行う。初級クラスは「日本語能力試験」2級程度以上の実力を確実に修得し、中級クラスは同試験の1級取得を目標とする。上級クラスは、更なる実力の向上を図る。	◎			
		日本語研究ⅡB	2	2	これから始まる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。履修時にプレースメントテストを実施し習熟度別(初級・中級・上級)クラス編成を行う。初級クラスは「日本語能力試験」2級程度以上の実力を確実に修得し、中級クラスは同試験の1級取得を目標とする。上級クラスは、更なる実力の向上を図る。	◎			
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	2	1~4	大学生、あるいは社会人として必要とされるであろう日本語の基本的な運用能力の獲得を、この授業の主要なテーマとする。日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学習することにより、確実な日本語基礎力を身につけることが出来る。また、この授業の中では日本人のための「日本語検定」を紹介しており、受験に対しての指導も合わせて行う予定である。	◎			○
		文学への招待	2	1~4	本講義では、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことを目的とする。さらに、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすものである。	◎	◎		◎
		美術の見方	2	1~4	美術作品の見方について考え、一人ひとりが美術の見方を身につけることを目的とする。美術作品の「見方」といっても2つの考え方がある。1つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、2つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。ここでは、2つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行い、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになる。	◎		◎	○
		音楽のたのしみ	2	1~4	テーマは「音楽とは何か」。人類は、なぜ音楽を創り出し、そして継承してきた。現在音楽は、生活の様々な場面まで深く浸透している。しかし、冒頭の問いに直ちに的確に答えることはできない。本講座では、人と音楽との関係、音楽そのものについて考察し、冒頭の問いに対して自分なりに回答できるようになる。	◎		◎	○
		生涯スポーツ論	2	1~4	スポーツ・運動の基本的内容を理解し、実生活で活用できることを到達目標とする。	○			
		生涯スポーツ実習	1	1~4	生涯スポーツ実習を通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわって、たくさんプレーすることによって高めることができる。			○	

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合B群	世界認識・自己理解	哲学	2	1~4	哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの、極めて重要な知的伝統である。講義では、この知的伝統をたどりつつ、世界と自分について、自分の頭で考えることを目指す。	◎	○		
		宗教学	2	1~4	世界の歴史の中でどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知ること。	◎	○		
		倫理学	2	1~4	我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位に自分固有のよき人生への指針を与えることが目標である。	◎	○		
	世界認識・自己理解	心理学	2	1~4	心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解することを到達目標とする。	◎			○
		多文化理解	2	1~4	テーマ: 本講では、文化人類学的視点に基づいて伝統的社会から近代的産業社会までの様々な人間集団の文化(生活様式、社会制度・習慣など)を比較・考察する。そうすることにより、「文化の多様性」を通して人間とは何かをより広い角度から理解する。 到達目標: 様々な社会や民族に見られる異なった、独自の生活様式や思考様式、すなわち「文化」を価値判断抜きに比較、考察、理解することができる。またそうすることにより、広い視野と寛容性を身につけることができる。	◎			
	社会と制度	日本国憲法	2	1~4	<テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。 「人権」について理解を深める。 <到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎			
		民法	2	1~4	民法は、皆さんが社会生活をする上でのトラブルを解決するルールを定めていますので、民法を学習することにより、社会生活に役立つ実用的な知識が身に付きます。また、公務員試験や資格試験などの多くに試験科目として採用されていますので、これらの試験を目指す人にとっては、必修の科目といえます。したがって、この授業では、次のステップとしての公務員試験や資格試験の勉強に円滑に移行できることも念頭に置いて、民法の基礎を理解し記憶することを目標とします。	◎			
		経済学	2	1~4	経済学を学ぶもっとも重要な理由は、自分が暮らしている世界を理解するのに役立つことである。日常生活で目にするさまざまな経済的現象に関する分析的思考を修得する。とりわけ我々の生活への応用可能性を探ることに重点をおく。具体的には市場における消費者や企業といった経済主体の経済活動の背後論理を理解し、価格メカニズム、豊かさの意味合いと国民所得、経済成長および経済政策などと実生活とのかかわり合いについて理解を深めることができる。	◎			
		社会学	2	1~4	本講義の到達目標としての掲げる中心的テーマは以下のようである。 ①社会学に関する、基礎的な考え方・見方を身につける。 ②人の生活や一生について、社会学的な視点から理解を深める。 ③身の回りの出来事を、社会学的な視点から分析できるようにする。	◎			
		人権と政治	2	1~4	●授業の到達目標及びテーマ: 世界レベルで問題となっている、様々な「人権」について、標準的な知識を身につけることを目標とする。	◎			
		社会と統計	2	1~4	●統計学の基本的な考え方を事例を見ながら習得すること。 ●実際に応用分析ができるようになることをめざす。	◎			
		自然と教理	環境科学	2	1~4	環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等の生命と環境についての基礎的な知識を修得し、近未来に人類が直面すると予想されている様々な環境問題、世界規模で流行が懸念される感染症などを取り上げ、それらへ対応するための知識修得を行う。	◎		
物理学	2		1~4	物理の基礎。簡単な計算ができること。計算を通じて考えられること。物理的な見方ができるようになること。	◎				
生物学	2		1~4	[テーマ]: 最近の生物学関係の進歩はめざましいものがある。それらを少しでも理解できるよう、生物について、人間について、分子、細胞、組織、構造、進化など様々なレベルで基本的理解を深め、医学、環境問題などの生物学的現象についての理解力・思考力を身につける。受講することにより、新たな知識を丸暗記するのではなく、過去の知識と関連づけながら理解し思考する習慣を少しでも身につける。 [到達目標]: 人間は生物であることを再認識する。人間は様々な生物の世界がなければ生きていけないことを理解する。生物は生きていくために栄養が必要であることを理解する。生物は進化してきたことを理解する。進化とはどのような現象でどのように起こるのかを理解する。生物学は科学の一つであること、科学とはどのような学問であるかを理解する。原核生物と真核生物の違いが分かる。ウイルスと、生物との違い、細菌との違い、が分かる。細菌と真核単細胞生物とが区別できる。病原体には、ウイルス、細菌、原生動物などがあることがわかる。人間の免疫とはどのようなものであるかおおよそわかる。真核多細胞生物は動物と植物と菌類であることが分かる。有性生殖と無性生殖の違いが分かる。多細胞動物の体が、体細胞と生殖細胞からできていることを理解する。遺伝子と染色体との関係が理解できる。遺伝子を構成する物質がDNAであることが分かる。同じ両親から生まれる兄弟は、約70兆以上の遺伝子の組み合わせから生まれることを理解する。双子児の1卵性と2卵性の違いを理解する。	◎				

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
		化学	2	1~4	本講義では基礎的な化学知識の学習に重点におき、また日用品、生活に必要な薬品化学や界面化学分野の項目も取り上げ、将来の職業にも役立つ知識の修得を目指したい。	◎			
		人類生態学	2	1~4	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができる。	◎			
		統計学	2	1~4	統計学の基礎概念を、実例を通じて習得し、将来の応用を旨とする。	◎			
		数学	2	1~4	医療系の学習を進める上で将来必要となる数学的知識の習得	◎			
		総合C群		1~4	入学した学科で学ぶ専門領域以外に様々な分野や世界、価値観があることを知り、また理解することを目的としている。社会人となったとき幅広い知識を身につけるために他領域について「個々をやや深く」学ぶ。	◎	○		

カリキュラム・マップ(ディプロマ・ポリシーに対する科目の位置付)

学部名	心理学部	学科名	子ども発達教育学科
-----	------	-----	-----------

子ども発達教育学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	(1)子どもの心理発達特性や障害児の心理等を十分に理解し、子どもの主体的な学びを援助する専門知識を修得するとともに、一人一人の子どもにとって、よりよい保育・教育環境を計画的に構成することの意義を十分理解している。(2)子どもの保育内容・教育内容に関わる専門知識を身につけ、それらの相互補完的な複合的な理解とともに、子どもへの直接的な発達支援や、保護者への子育て支援の専門知識を修得している。
DP2	思考・判断	講義や演習、実習を通じて、自らの子ども親や保育観・教育観を形成するとともに、形成の経緯を振り返ったり、他者の子ども親や保育観・教育観と比較するなど、より望ましい子ども親や保育観・教育観を形成するための判断力を身に付けている。
DP3	技術・行動	保育・初等教育にかかわる各種の専門援助技術を身につけ、積極的に子どもや保護者と向き合い、専門職者としての責任を自覚した行動がとれる。
DP4	態度	保育・初等教育に携わる者として、子ども一人一人の個性や特性を尊重し、その成長発達を見守り、援助する姿勢を持つと同時に、常に専門職者としての知識や技能の向上に意欲を持ち、また人間としての自らの自己成長に努力する態度を身に付けている。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
学部共通科目	心理学概論Ⅰ	2	1	春	【テーマ】行動(心の働き)と環境との関わり、つまりヒトが環境に「適応する」とはどういうことなのか、について、感覚、知覚、記憶、学習の観点から理解する。 【到達目標】人間の行動(心の働き)には、環境が大きな影響を与える。そのため、人間がどのように外界からの情報を取り入れ、適応行動を行っていくのかについての理解を深める。		△		○
	心理学概論Ⅱ	2	1	秋	多様な心理学分野の中で、時間の経過にともなって発達していく心理過程、また、心理社会的枠組みの拡大にともなって成長していく心理構造を理解するのがテーマである。講義内容の6割以上の理解度をもって、到達水準とする。		△		○
	子どもの心理発達	2	2	秋	系統発生的な視点を取り入れながら、とくに子ども期に焦点を当てて、ヒト・人間の発達・発生をとらえることをテーマとし、動物としてのヒト発達の特殊性や共通性を知り、発達心理学の幅広い知識を習得するとともに、心理学的な考え方を理解することを到達目標とする。	◎	◎		△
学科専門基礎科目	社会福祉	2	1	春	少子高齢化社会の中で、保育者は子どもの保育や子ども家庭支援の役割を担っている。それらを果たすために必要な社会福祉の知識や技術について理解することをテーマとする。社会福祉の制度や実施体系、社会福祉の範囲や法体系、相談援助の方法(ソーシャルワークの技術や方法)、利用者保護に関わる仕組み、社会福祉の動向と課題などについて理解することを到達目標とする。	◎	○		△
	保育の計画と評価	2	3	春	全体的な計画の編成に伴う基本的な理論と技法を理解することを目的とする。保育における計画、実践、省察・評価、改善の過程について、全体構造とそれぞれの役割とその関係性について理解することを目指す。子どもにとって大切な遊びを中心とした保育カリキュラムについて、理論的な理解と子どもの発達を見通した保育のあり方、長期・短期の指導計画の意味とその実質的内容など、保育環境の構成にも考慮することで理解する。	◎	○	◎	
	子育て支援論	2	1	秋	本講義は幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であるが、家庭や地域社会における子どもの育ちの保障をテーマとして、次世代育成支援や子ども家庭福祉の現状や課題について学ぶことにより、各種児童福祉施設や機関における子育て支援を担う保育者の専門性について理解することができる。	◎	◎		○
	子ども文化論	2	2	春	「子どもの文化」を大きなテーマとして捉え、「子ども」に焦点をあて、子どもの持つ独自の文化を理解する。そのなかで、子ども本来の文化とはどのようなものであるのか、文化が子どもにどのような影響を与えたのかについて、自らの経験と照らし合わせながら考えて行く。さらには、主になが国における子ども文化の現状・課題について考えていき、保育者・教師としての資質・力量に備わっていくようにすることがその到達目標となる。	◎		○	△
	子ども家庭福祉	2	1	秋	子ども家庭福祉の概要を理解し、これからの課題や展望について学ぶことをテーマとする。現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について、子ども家庭福祉の人権擁護について、子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解することを到達目標とする。	◎	○	△	△
	相談援助の理論と方法Ⅰ	2	3	春	社会福祉の援助技術であるソーシャルワークの基本的な知識を得ることができる。ソーシャルワーカーとしての価値、知識、技術を身につけることが目標である。	◎	○	△	
	相談援助の理論と方法Ⅱ	2	3	秋	社会福祉の援助技術であるソーシャルワークの基本的な知識を得ることができる。到達目標は、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークなどの広範なソーシャルワークの価値、知識、技術を具体例を交えながら身につけていくことである。	◎	○	△	
	子ども家庭支援論	2	3	春	テーマは、家庭支援の意義とその方法を学ぶことである。自分の生い立ちや家族関係について、あらためて振り返り、自分への影響に気づくことができる。子どもと家庭に関わる様々な問題に対して、どのような支援方法があるのか、基本的な方法を思い出すことができる。現代の家族や家庭のあり方、家族を取り巻く環境、そして家庭支援に関わる知識を得ることによって、専門職として必要な基本的な価値観、知識、技術を身につけることができる。	○	◎	△	
	心理演習Ⅰ(面接)	1	2	春	カウンセリングについての基礎的な知識とスキルを学ぶことがこの授業のテーマである。到達目標は、カウンセリングの諸理論、技法、アセスメントなど、カウンセリングを行う際に必要な知識とスキルの基礎を習得できることである。			○	○
	健康・医療心理学	2	1	秋	「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣などが健康に及ぼす影響・効果を理解する)ことが授業のテーマである。 到達目標は、健康行動に関する基礎的な理論の理解と、生活習慣病の予防やストレスマネジメントの知識を習得することである。	○	○		
	精神疾患とその治療	2	4	春	テーマ:精神医学 到達目標:公認心理師として必要な精神障害についての下記の知識を、学生が身につける。 1. 精神医学の基礎的事項・総論的事項を理解する。 2. 代表的な精神障害について、概念、成因、疫学、症状、検査、治療などについて理解する。 3. 精神障害特性を理解し、リハビリテーションにかかわる際の基本的態度を学ぶ。 4. 精神医学の歴史的な背景を理解する。 5. 精神医療保健福祉関連の法律の概要を理解する。			△	△
保育の心理学Ⅰ	2	2	春	発達とは人と人の関わりのなかで生じていることを中心に、乳幼児の保育や幼児教育を行っていくうえで必須となる子どもの心身発達の基礎となる心理学的知見を学ぶことをテーマとする。到達目標は、子どもの生得的なすばらしい能力とその発達過程を理解し、子どもに対する興味・関心を高め、より多面的に理解しようとする心構えを形成することである。	◎	◎		○	
子ども家庭支援の心理学	2	2		生涯発達の心理学理論を中心に、発達のプロセスの概要を理解するとともに、初期経験の重要性、発達課題などについて学習する。それらとの関連の中で、家族関係、子育て家庭の課題、子どもの心の健康について学ぶ。					
保育の心理学Ⅱ	1	2	秋	子どもの発達と保育実践、生活や遊びを通じた学びの課程、保育における発達援助の3つの観点から保育の心理学の理解を深めるというのがこの演習のテーマであり、単なる座学としての知識ではなく、学んだ知識をもとに様々な現実的な問題への対応について自分で考えることができるようになることが到達目標である。	○	◎	○	△	

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
学科専門基礎科目	臨床心理学概論	2	3	秋	臨床心理学についての基本的な内容を学習し、臨床応用につながるための援助技法の理論を理解する。	◎			
	学習・言語心理学	2	3	春	心理学では、「学習とは、活動や訓練あるいは観察の結果として生じた永続的な行動の変容である」と考え、学習心理学には、「人はなぜ行動するのか」というテーマのもとに、行動と認知の形成メカニズムを説明するための数多くの理論が存在する。本講では、臨床心理学の基礎として、学習理論・行動理論のなかで代表的な理論を理解することを目標とする。	○			
	障害者・障害児心理学	2	3	秋	「障害」とは何か、その種類、症状、診断基準、支援方法等の知識を習得するとともに、実際の映像を視聴することによって理解を深めることを目指す。	◎	△	○	△
	教育・学校心理学	2	3	春	学校教育場面における問題の現状を把握するとともに、その捉え方や対処法について習得します。	○	△	◎	
	対人関係論	2	3	春	「社会における人と人との相互作用」と「社会的適応」をテーマとして、人々の具体的な日常生活場面における対人行動の特徴を理解することにより、よりよい人間関係のあり方について考察を深めることができるようになる。		○		○
	社会的養護Ⅰ	2	3	春	「児童の社会的養護」と「児童の自立支援」をテーマとして、施設養護における児童の権利保障や最善の利益について、その理念と実践を学ぶことを目標とするが、受講により社会的養護の現状と課題について理解できる。	○	○		○
	保育原理Ⅰ	2	1	春	保育に携わる上で基礎概念となる保育の原理を理解すると共に、より柔軟な保育理念を身に付けるための考察力を培うことを目的とする。保育における歴史や思想を知ること、現在の保育に至る流れをより深く理解してほしい。さらに、乳幼児期の子どもの発達を考察し、保育内容を考慮した上での計画の意義・重要性を知ってほしい。保育者とは？この疑問に対して、自らの答えを見つけて出してほしい。	◎	◎		○
保育・子ども教育領域	保育原理Ⅱ	2	1	秋	現在保育現場において求められているものは多様化し、細分化されてきている。当然、保育者自身に求められるものも変わってきている。今保育者として求められているものとは何か？子どもたちにとっての保育者とは？保護者にとっての保育者とは？そのような疑問に対する答えを、役割と論理・制度的位置づけ・専門性などの面から自ら見つけたことのできる考察力と保育者観を身につけてほしい。	○	◎		○
	保育原理Ⅲ	2	2	春	保育所における保育の基盤となる保育所保育指針は、とても重要であり十分に理解されるべきものである。この講義を通して保育所保育指針における総則を含めた全7章を深く理解し、保育制度の現状を学ぶ。さらに、現代の保育課題に対しての知識を高める。	◎		○	△
	子どもの保健	2	1	春	子どもの保健は日常生活を実践の場とし、子どもの心と身体の健康の保持・増進を目的としている。子どもの保健ⅠAでは、常に発達する存在である子どもの健康の保持および増進につとめられるよう、生理的・社会的・精神的側面から子どもの特徴や子どもの病気を理解し、子どもの健康を守るための知識を習得することを目標とする。	○	△		△
	子どもの健康と安全	1	2	秋	少子化、核家族化などの社会現象に伴い、子どもがおかれている環境は変化している中で、心と身体の問題、障害のある子どもへの対応、危機管理、健康づくりと地域保健活動などの理解を深め、子どもの健康問題の解決法を習得することを目標とする。		△	○	△
	子どもの食と栄養Ⅰ	1	2	春	心身の成長、発達が急速に進む小児期の食生活や栄養は、豊かな人間性を育て、生涯を通じた健康、特に生活習慣病予防ということにもつながっていくものである。しかし、私たちを取り巻く生活環境、社会環境は複雑であり、いろいろな問題が山積されている。そのような中で、将来保育士を希望する人たちは、食生活や栄養、食品に関する基礎知識を身につけ、食と栄養の基本をしっかりと学び、先ず、自分自身の健康管理に留意しておく必要がある。			○	△
	子どもの食と栄養Ⅱ	1	2	秋	① 各時期の栄養・食生活の特徴を知る。 ② 生活習慣病予防の面からも、食生活が家族の健康や生活、地域と密接な関係があることを理解する。 ③ 専門職である保育士が子ども達にはもとより、保護者に対しても支援ができるように学ぶ。	△	△	○	△
	乳児保育Ⅰ	2	2	春	0歳児保育、1歳児保育を中心として学ぶ。発達の未熟性を特性とするこの時期の保育は、乳幼児突然死症候群を含めて、健康、安全面に十分配慮し、保護者との協力関係の下に、慎重に保育を行うことが大切であるが、そのことの意義について学ぶことができる。	◎	◎	◎	◎
	乳児保育Ⅱ	1	2	秋	1歳児、2歳児を中心として、子どもの発達理解、子どもや保護者への援助のあり方について学び、子どもの命の尊さ、命を育むことの意義について学ぶことができる。また、温かな人間性と諸科学の理論に裏付けられた保育実践力を身に付けることができる。	◎	◎	◎	◎
	乳児保育Ⅲ	1	3	秋	集団生活の場における乳児保育の問題点および保育内容について学ぶとともに、月齢による発達の理解と保育実践について、日案や月案による実践計画ならびに記録方法などについて正しく身に付けることができる。	◎	◎	◎	◎
	障害児保育Ⅰ	1	1	春	それぞれの「障害」についての基礎的知識をする。また、現在の保育現場における、現状と課題について考える。子ども、家族の持つ困りに気づき、保育士としてどのような支援が求められるか、実際に障害のある子ども、またその家族と関わりを持ちながら、それぞれの障害特性を理解した上で具体的支援方法を習得する。	◎	○	△	△
	障害児保育Ⅱ	1	2	秋	最近では、さまざまな障害を抱える子どもたちが、幼稚園や保育所において地域の子どもたちと一緒に生活をする「統合保育」が進んでいる。地域の中でもともに生活することは、専門機関による療育・訓練とは違った意味で障害の改善につながることは明らかであり、その支援が「保育」の任務でもある。また、障害を持つ子どもたちとともに保育を受けることが、障害を持たない子どもたちの発達にも大きな影響を与えている。 本講義では、「障害児保育」(2年次後期開講科目)で学んだ基礎知識をもとに、次の3項目を中心に深める。 第一に、障害児保育の入り口として、障害の特徴、障害児保育の概念について理解してうえで、「統合保育」について考える。 第二に、障害別の保育方法について理解してうえで、保育所・幼稚園における保育計画について実践的に学ぶ。 第三に、児童相談所や発達支援センターなど障害児保育に関する関係機関との連携、障害児を持つ保護者に対して保育者としての支援のあり方について考える。	○	○	◎	△

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
障害児保育Ⅲ	1	2	秋	最近では、さまざまな障害を抱える子どもたちが、幼稚園や保育所において地域の子どもたちと一緒に生活をする「統合保育」が進んでいる。地域の中でも共に生活することは、専門機関による療育・訓練とは違った意味で障害の改善につながることは明らかであり、その支援が「保育」の任務でもある。また、障害を持つ子どもたちとともに保育を受けることが、障害を持たない子どもたちの発達にも大きな影響を与えている。 本講義では、「障害児保育」(2年次後期開講科目)で学んだ基礎知識をもとに、次の3項目を中心に深める。 第一に、障害児保育の入り口として、障害の特徴、障害児保育の概念について理解してうえで、「統合保育」について考える。 第二に、障害別の保育方法について理解してうえで、保育所・幼稚園における保育計画について実践的に学ぶ。 第三に、児童相談所や発達支援センターなど障害児保育に関する関係機関との連携、障害児を持つ保護者に対して保育者としての支援のあり方について考える。	○	○	◎	△
社会的養護Ⅱ	2	3	春	児童の社会的養護と「児童の自立支援」をテーマとして、施設養護における児童の権利保障や最善の利益について、その理念と実践を学ぶことを目標とするが、受講により社会的養護の現状と課題について理解できる。	◎		○	○
保育内容指導(健康)	1	2	春	●生涯にわたる心身の健康の基礎を培う重要な幼児期における、運動、生活習慣は、体格、運動能力の発達にもとより、心身の病気に対する抵抗力などの防衛体力、さらには、安全という視点からも大きな影響を及ぼす。こうした健康という保育内容の歴史的・概念的枠組みから、その具体的留意点までを理解することを目的とする。 ●保育現場での運動指導の計画策定、指導案の作成、指導技術の習得を到達目標とする。	○	○	◎	◎
保育内容指導(人間関係)	1	2	秋	幼児が他の人々と親しみ、支え合って生活できるようになるために、保育に求められることは何かを理解する。 そのためには保育内容の領域「人間関係」について理解すると共に、乳児との応答関係が形成されるための、保育者の関わり方や環境作りの重要性について理解する。そして、乳幼児が人と関わる力を身につけていくための現代的課題についても理解する。	◎	○	○	◎
保育内容指導(環境)	1	2	秋	幼児期の環境を通じた原体験の質は、障害を通じ極めて重要な要素となる。幼児の自然認識、時間・空間認識を刺激・促進するには、幼児に野外の自然を感じさせ、物に触れることが大切であることを学び、同時に幼児にとっては取り巻く環境の中で、身近な動物・植物の名前の認識も大切であることを学ぶ。また「これは何」「どうして空は青い」「鳥の音がいくつ聞こえる」などの質問に対し、子供に応答させるなどの手法を学ぶ。環境の原体験が成長にとって極めて重要で、幼児を取り巻く環境にどのようにふれさせるか、その内容・方法の基礎を具体的事例や討論から学び、環境を有効に活用した保育教育内容の基礎を修得する。			○	○
保育内容指導(言葉)	1	2	秋	テーマ:「子どもの言葉の獲得と発達および保育者の援助」について理解する。 到達目標:①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「言葉」のねらいおよび内容について把握する。 ②人間としての発達の視点から幅広く言葉の問題をとらえ、子どもの言葉の獲得と発達について理解する。 ③子どもの言葉の獲得における保育者の援助・指導のあり方と、言葉の発達に即した環境構成のあり方について理解を深める。	○	△	◎	◎
保育内容指導(表現)	1	2	秋	「子どもの表現活動の理解および造形・身体表現の技法と技術」をテーマとする。前半の身体表現では、音楽を用いた表現の方法を学習した上で、実際に作品作りを行い表現力を養う。後半の造形表現では、環境づくりの課題として「子ども参加の空間デザイン」をテーマに壁面空間のグループ製作を通して保育内容の指導に必要な造形表現力を養う。	○	○	◎	◎
保育内容指導(保育内容総論)	1	2	秋	保育内容を総合的に学び、保育現場において展開される園生活や保育者の位置づけを考える。乳幼児期における1年の違いをしっかりと理解し、発達基準として子どもの成長を理解することに努めることを望む。また、実際に指導計画を立案し、グループディスカッションをすることで指導案の重要性を認識してほしい。	◎		○	△
基礎技能(音楽A)	1	1	秋	テーマは「子どもの豊かな音楽活動を援助する技術の習得」であるが、指導者は、保育や幼・小学校教育現場における子どもの音楽活動が実践できなくてはならない。そこで本講座では、そのためにはどのような音楽的な知識・技能が必要かを理解し、それら(ソルフェージュ力、歌唱力、器楽演奏の基礎力、楽典の知識)の習得を目標とする。	◎		○	
基礎技能(音楽B)	1	2	春	テーマは「子どもの豊かな音楽活動を援助する技術の習得」であるが、指導者は、保育や幼・小学校教育現場における子どもの音楽活動が実践できなくてはならない。そこで本講座では、音楽Aで習得したソルフェージュ力、歌唱力、器楽演奏の基礎力、楽典の知識をベースに、動きのリズムのためのピアノ曲演奏、子どもの歌が素歌で歌える、子どもの歌が必要に応じて弾き歌いができるなど、音楽教材のレパートリーの幅を広げることを目標とする。	○		◎	
基礎技能(図画工作)	1	1	春	「図画工作に関する基礎的な技能の習得」がテーマであり、保育の現場において十分な実践指導ができる能力の養成が目標である。	○	△	◎	◎
基礎技能(小児体育)	1	1	秋	児童の体力・運動能力は総じて低下の傾向を示しているといわれている。 こうした現状の原因として、幼児期・児童期における運動遊びの減少が指摘されている。 そこで、体力・運動能力の基礎を培う幼児期・児童期の運動の質的向上をテーマとし、子どもの発達段階に即した運動遊びを理解することを目的とする。	○	◎	○	◎
基礎技能Ⅱ(音楽)	1	2	春	テーマは「保育・教育実践における音楽指導力の習得」である。本講座では、音楽A・Bで習得した音楽の基礎技能・知識とその応用能力の習得過程で発見したより専門的な課題、特に、器楽指導及び合奏、身体表現やオペレッタ創作、特別支援に有効な音楽療育的な音楽活動ができるようになることを目標とする。	○		◎	
基礎技能Ⅱ(図画工作)	1	1	秋	「図画工作に関する基礎的な技能の習得」をテーマとして、造形指導に関するより幅の広い知識と造形技能の習得を図り、より高い実践指導力を身につける。	○	△	◎	◎
保育実習指導ⅠA	1	3	春	授業の到達目標及びテーマ:保育士養成過程において修得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うことを目的とする。	○	◎		△
保育実習指導ⅠB	1	3	秋	保育士養成課程において修得した教科の知識・技能を基礎とし、これらを児童福祉施設等(保育所以外)で実践する能力を身につけることをテーマとする。到達目標として、①保育実習の意義・目的を理解する。②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する、などがあげられる。	◎	◎	○	◎
保育実習指導Ⅱ	1	3	春	保育実習Ⅱについての実習内容の理解と準備及び実習後の振り返り 保育士養成課程において修得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うことが重要である。そのために学生が、保育実習ⅠからⅡへとつなげるには自身の学びがどのように発展し、実習へと展開されるべきなのかを理解することができる。		○		△

保育・子ども教育領域

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
保育実習指導Ⅲ	1	4	春	保育実習Ⅰの内容を深め、総仕上げの実習をするための準備をすることをテーマとする。到達目標として、①保育実習の意義と目標を理解し、保育について総合的に理解する。②これまでの実習や既習の教科目の内容や関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえたの改善について、実践や事例を通して理解することなどがあげられる。	◎	◎	○	◎
保育実習ⅠA	2	3	春	保育所実習における観察や子どもとのかかわりを通じて子どもへの理解を深めるとともに保育所の役割や機能を具体的に理解する。また、学内学習を踏まえ、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。さらに、保育者としての職業倫理、特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権の尊重について具体的に学ぶ。	◎	◎	◎	◎
保育実習ⅠB	2	3	秋	児童福祉施設等の利用児・者を理解し、施設保育士の役割や業務内容を理解することをテーマとする。到達目標として以下があげられる。①児童福祉施設の役割や機能を理解する。②観察や関わりを通じて、利用児・者への理解を深める。③既習の教科目の内容を踏まえ、利用児・者や家族(家庭)への支援について理解する。④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。	◎	◎	◎	◎
保育実習Ⅱ	2	3	春	1. 保育現場を実際に触れ、実践において必要な日々の心構え、子供と関わる上で重要となる保育理論、そして体調管理の重要性を感じてほしい。 2. 地域社会や子どもひとりひとりの持つ家庭環境の違いを考慮し、保育実践におけるニーズに対しての理解力・対応力について考える。 3. 毎日の保育場面から、自己の持つ知識・経験・技術における課題を明確にし、自己解決力を身に付ける。	◎	◎	◎	◎
保育実習Ⅲ	2	4	春	保育実習Ⅰの内容を深め、総仕上げの実習をすることをテーマとする。到達目標として、①既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解する。②家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得することなどがあげられる。	◎	◎	◎	◎
子育て支援	1	3	秋	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性を具体的に理解できる。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解できる。		○	◎	△
子どもの国語	2	2	春	本講義は、幼稚園および小学校教員に必要な国語の基礎的知識の修得をテーマとし、学生が教員採用試験に出題される問題に対応できるレベルを到達目標とする。 ①教師を目指す者として、敬語・文法・漢字・文章表現など、国語の基礎的知識を習得するとともに、子ども・保護者などの他者に対して正しく美しい会話表現ができる基礎的技能を身に付ける。 ②教師を目指す者として、文字を書くことの重要性に気付く、正しい筆順で字形の整った美しい文字を書くことができる。	◎	○	○	○
子どもの社会	2	2	春	将来、学校現場において社会科の授業の実践できる教員の養成がテーマであり、小学校教員に必要な社会科の授業における基礎的知識及び実践的指導力の育成を目的とし小学校教員採用試験に対応できるレベルをその到達目標とする。	◎	○	○	○
子どもの算数	2	2	秋	幼児や児童の数量概念や図形概念の構成や基礎作りができるために必要な数学の専門性や数学的な考え方の力量を習得するため、(1)数学的な考え方に関する知識を深め、(2)算数科の授業の基本及び4領域の内容を理解し、(3)数学的な考え方を基にして問題解決を図ることをねらいとしている。	◎	○	○	○
子どもの理科	2	2	春	子どもが自然に親しみ、自然に畏敬の念をもつことができるような理科学習を目標とする。また、子どもの予測や質問が可能であり、子どもの個人の能力を引き出せるような理科の学習を考える。小学校での理科の内容を知り、自然のしくみを理解することによって教育実習や幼稚園と小学校教員採用試験とに対応出来るようになる。	◎	○	○	○
子どもの生活	2	2	春	「子どもの生活体験」をテーマとして、日常生活における文化・伝統や生活習慣、保育や教育の場における人間関係や自然、との関わりについて理解することを目標とするが、履修により保育実践力を身に付けることができる。	◎	○	○	○
子どもの音楽	2	1	春	大人は、音楽とは芸術であり、楽しみとして捉えている。しかし、子どもの場合は、彼ら独自の音楽世界を持っている。本講座では、子どもの発達から、幼児及び児童の音楽活動とはどのようなものを知り、子どもの豊かな音楽表現が引き出せるなど、子どもの視点に立った指導者ができるようになる。	○	○	◎	○
子どもの図画工作	2	1	春	「子どもの造形活動の援助」がテーマである。造形に関する知識を身に付け、子どもの造形表現の発達過程と造形活動が成長におよぼす影響を理解した上で、適切な援助と指導ができる実践力を獲得させる。	○	△	◎	◎
子どもの家庭	2	2	秋	子どもたちが生活者として自立する上で必要な生活技術と知識について食生活、衣生活、住居、家族の生活の各分野についての理解を深めます。また、調理や被服製作など基礎的な技術を身に付けるための実習や体験を行うことで、子どもたちが生活者として自立能力を育てるための、楽しみながら行うことのできる実践的・体験的学習の在り方を考えます。そして、一人の生活者として日常生活を豊かにする家庭科力を身に付けることを目的とします。	○	◎	◎	○
子どもの体育	2	2	春	幼児期から就学前期の運動経験は、以降の体力・運動能力はもとより、他者との関わりなどの社会的適応力、精神的発達にも大きな影響をおよぼすことが知られている。そこで本講義では、「子ども期に必要な運動の質・量」をテーマとし、それを指導するための技術を身に付けることができるようにする。	○	◎	○	○
子どもの英語	2	2	春	小学校の外国語活動の授業で子どもたちが使用している教材を使って、子どもの英語を実際に体験し、子どもの英語についての理解を深め、自信を持って子どもたちに英語の指導ができるようにする。	◎	○	○	○
保育指導法(健康)	2	2	春	●児童期の体力・運動能力は総じて低下の傾向にあると言われている。これは児童期の体力・運動能力の基礎となる幼児期の運動機会の減少が理由の1つと考えられる。そこで、本講義は、幼稚園教諭を志望する者を対象とし、生涯を通じて健康で安全な生活を営む基盤としての幼児期の健康への配慮について理解することを目的とする。 ●教育現場(幼稚園)での運動指導の計画の策定、指導案の作成、指導技術の習得を到達目標とする。	◎	○		○
保育指導法(人間関係)	2	3	春	幼児が他の人々と親しみ、支え合って生活することができるように、幼児の自立心を育て人と関わる力が育つ保育指導法を身に付ける。そのために幼児期の発達の特性と幼稚園教育要領「領域(人間関係)」について理解を深め、保育実践を具体的に想定し指導法を探究する。	◎	○	○	◎

保育・子ども教育領域

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
保育指導法(環境)	2	3	秋	<p>幼児期の環境を通じての指導は、ヒト、もの、それを取り巻く環境に対する感受性を大切に保育指導は極めて大切な役割を持つ。保育指導方法の基礎知識と具体的取り組みについて事例研究をしながら、いかにして教育に役立たせるかの基礎を修得することを目標とする。具体的には以下のような項目について学ぶ。</p> <p>(1) 幼児の自然認識、時間・空間認識を刺激・促進するには、まず、幼児を野外に連れ出し、物に触れさせることが必要である。</p> <p>(2) 幼児を取り巻く環境の中で、身近な動物・植物の名前は避けて通れない。</p> <p>(3) 「これ何」「どうして空は青いの」「赤ちゃんはどこから来るの」などの質問に、幼児向けに答え、処理させる。</p>	◎	○	○	◎
保育指導法(言葉)	2	2	秋	<p>幼児が自分なりの言葉で表現したり、相手の話を聞こうとしたりする意欲や態度、および豊かな言語感覚の基礎が育つための指導法を身につける。</p> <p>そのために乳幼児期の言語発達の特性と幼稚園教育要領「領域(言葉)」について理解し、保育の実践場面を具体的に想定し、保育を構想する方法を身につける。</p>	◎	○	○	◎
保育指導法(表現)	2	2	春	<p>子ども総合演習Ⅲは教職全般に関する科目であり、履修により児童等を指導するための方法及び技術を身につけることができる。本演習では、教育場面における諸課題に対する理解力と対応能力の涵養を到達目標とする。</p>	◎	△	◎	◎
保育指導法(保育内容総論)	2	3	春	<p>遊びを通じた総合的教育を目指す中で、子ども理解と環境構成はその方法を決定する上で最も大切な要因となる。しかし、子ども理解と環境構成に対する視点はいくつも存在し、それぞれの視点によっての捉え方もまた違う。「方法」の捉え方とその探り方について、自らの理論を構築し、柔軟な視野を見つけることを目的とする。</p>	○		◎	◎
初等教科教育法(国語)	2	2	秋	<p>本講義は、小学校教員に必要な国語科授業における基礎的知識の修得及び実践的指導力の育成をテーマとし、到達目標は次の4点とする。</p> <p>① 国語科の目標や内容を理解し、学習指導案を作成することができる。</p> <p>② 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施することができる。</p> <p>③ 授業評価を適切に行い、課題を見つけ、授業内容や指導方法を改善していくことができる。</p> <p>④ デジタル教材の開発など、ICTを活用した指導方法を理解することができる。</p>	◎	◎	◎	◎
初等教科教育法(社会)	2	3	秋	<p>「学校現場において社会科の授業が実践できる教員」がテーマであり、指導にあたり必要な社会科の授業における基礎的知識及び実践的指導力の理解・習得を目的とし、小学校教員採用試験に対応できるレベルをその到達目標とする。</p>	◎	○	○	◎
初等教科教育法(算数)	2	3	春	<p>小学校算数科の教科書の教材を、学習指導要領の指導のねらいに即して、オープンエンド・アプローチの問題等に教材開発など子どもにとって魅力ある教材教具開発し、授業実践ができるための実践的な指導力を育成することをテーマとして、次の5項目を到達目標とする。</p>	◎	○	◎	○
初等教科教育法(理科)	2	2	秋	<p>「問題解決型の理科授業ができる力を身につける」をテーマに、小学校理科の指導に必要な基礎的な概念を構築し、育成すべき資質、能力を理解する。また、知識や実験技術の基礎を習得して理科教育の指導法を身につけるために、学年ごとに育成する問題解決の能力を理解し、実験を取り入れながら確認する。それを基に単元計画や指導案を作成し模擬授業を行う。これらの学習を通して、理科の教え方を習得する。</p>	◎	○	◎	○
初等教科教育法(生活)	2	3	春	<p>小学校学習指導要領に定められた「生活科」の学習指導内容の理解をテーマとして、小学校1、2年生が具体的な活動や体験を通じて、自分と身近な人々や社会及び自然のかかわりに関心をもち、自己の生活について考え、生活上必要な習慣や技能を身につけ、自立への基礎を養うことができるよう指導するための教育指導方法について学ぶことができる。</p>	◎	◎	◎	○
初等教科教育法(音楽)	2	3	春	<p>テーマは「小学校教育における音楽科の目標と指導内容」。本講座では、音楽科の目標を踏まえ、A表現とB鑑賞の関係を理解し、歌唱・合唱、器楽・合奏、鑑賞の指導が、楽しい音楽活動を通して指導できるようになる。</p>	◎		○	
初等教科教育法(図画工作)	2	3	春	<p>「図画工作科教育に関する基礎的な知識及び授業運営についての実践」をテーマとして、児童の造形活動について正しい認識を身につけるとともに、児童が造形表現活動の喜びを通じて感覚や想像力を豊かに育むための教育技術を獲得することを目標とする。</p>	○	△	◎	◎
初等教科教育法(家庭)	2	3	春	<p>小学校家庭科を指導する上で必要な基礎的かつ基本的な知識と技術を習得することを目的とします。学習指導案の作成や、評価計画の作成を通して授業の組み立てについての基礎的な知識及び技術を身につけるとともに模擬授業を通して小学校教師として必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養います。</p>	◎	○	◎	○
初等教科教育法(体育)	2	3	春	<p>子どもの体力・運動能力低下が叫ばれるなか、小学校体育科の役割は今後ますます重要視される。授業では、体育科の目的・目標を歴史の変遷から概観し、現在求められている体力・運動能力、および健康観を理解することから、実際の授業で取り扱われる内容とその教授法、保健領域的配慮、評価の問題についての理解を目的とする。</p>	◎	◎	◎	◎
初等教科教育法(英語)	2	3	秋	<p>現行の小学校外国語活動をもとに、近々示される新学習指導要領(外国語科英語科)や小学校外国語科英語科の教科書を視野に入れ、小学校英語について理解を深めるとともに、小学校英語を指導する上で必要な基礎的・基本的な事項を学修する。また、授業における効果的なICT活用方法を追究して学習指導案を作成し、自信を持って、小学校の子どもたちに英語の授業をすることができるようにする。</p>	◎	○	◎	○
教育原論(初等教育)	2	2	秋	<p>教育原論は、教育の基本的概念や教育の理念などについて学ぶもので、教職科目の中でもとりわけ重要な位置を占めている。この授業では到達目標を次のように設定している。</p> <p>(1) 教育の基本的概念を身につけるとともに、子ども、教員、家庭、学校等教育を成り立たせる諸要因と相互の関係を理解する。</p> <p>(2) 家族と社会による教育の歴史、近代教育制度の成立と展開等教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する。</p> <p>(3) 家庭や子ども、学校や学習などに関わる教育の思想や代表的な教育家の思想を理解する。</p>	◎	◎		○
教職論(初等教育)	2	1	春	<p>教職論は、教職の実際やその社会的使命などについて学ぶことを通じて、教職への意欲を高め、教員としての自らの適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解するものである。この授業では到達目標を次のように設定している。</p> <p>(1) 教職の社会的使命と職業的特徴を理解する。</p> <p>(2) 教職の歴史と今日の教員に求められる役割及び資質能力を理解する。</p> <p>(3) 教員の職務の全体像を理解し、教員養成と研修、服務規程を理解する。</p> <p>(4) 「チームとしての学校」の一員としての役割を理解する。</p>	◎	◎		○

保育・子ども教育領域

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
教育行政学(初等教育)	2	2	秋	教育行政学は、教育行政の仕組みや関連する教育法規について学ぶとともに、教育行政を進める上で不可欠である保護者・地域との連携や学校安全に関する理解も深めるものである。この授業では到達目標を次のように設定している。 (1)公教育制度の原理と理念及び教育関連法規を理解する。 (2)学校・学級経営について理解するとともに教育課程や学校評価の重要性を理解する。 (3)学校と地域の連携・協働について理解する。 (4)学校安全の必要性及び具体的な取組を理解する。	◎	◎		
教育心理学(初等教育)	2	2	春	1. 授業場面をはじめとする学校生活において、生徒個人・生徒集団・生徒と教師との関係における心理学的知識を理解し、教育的課題の解決に生かせるようになる。 2. 生徒が学校で示す様々な心理学的問題を理解し、その対応に生かせるようになる。	◎	◎		○
特別支援教育(初等教育)	1	2	春	特別支援教育に携わる上で必要となる理念・制度を理解し、障害の理解と指導方法に関する知識が備わっている。				
教育課程論(初等教育)	1	2	秋	教育課程論は、教育課程編成の意義や方法及びカリキュラム・マネジメントの意義に関する理解を深めるものである。この授業では到達目標を次のように設定している。 (1)学習指導要領・幼稚園教育要領の性格・改訂の変遷と主な改訂内容及び教育課程編成の目的を理解する。 (2)教育課程編成の基本原則並びに子どもや学校、地域の実態を踏まえた教育課程の方法を理解する。 (3)カリキュラム・マネジメントの意義や重要性及びカリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。	◎			
道徳教育の理論と方法(初等教育)	2	3	春	道徳教育について、基礎理論を理解し、併せて実践的指導力を養う。基礎理論としては、道徳の本質、道徳の歴史、道徳性の発達理論、道徳教育の役割と課題、道徳教育の授業理論について理解する。また、実践力については、道徳の時間の指導案作成、模擬授業、総合単元的な道徳学習の構想作成を通して、道徳の時間の指導法を身に付ける。	◎	◎		○
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法(初等教育)	2	2	秋	本講義では、下記の3点を目標に学修し、学級活動及び総合的な学習の時間の学習指導案や活動計画を書き、授業構成ができるようにする。 1. 特別活動・総合的な学習の時間の意義、目標、内容を理解する。 2. 特別活動の指導法を実践的に理解する。 3. 総合的な学習の時間の指導計画を作成し、指導と評価の考え方を理解する。	◎	◎		○
教育の方法と技術(初等教育)	2	2	秋	●テーマ 教科書教材等を基にして、学習のねらいを効率的に達成するために大切な授業設計の仕方、学習指導の方法、学習形態、教育機器及び教材・教具の活用等について基礎的・基本的事項を習得し、それを実際の授業(模擬授業)等で生かすことができるようにすること。 ●到達目標 1. 子どもの興味関心を引きつけるための導入の在り方について理解できる。 2. 学習のねらいを達成するためには多様な指導方法・技術を駆使して授業を展開することが必要であることを理解し、授業実践に活用できる方法を身に付ける。	◎	○	◎	○
幼児理解	2	1	春	「子どもというものはどういう存在であるか」と考える「子ども観」をテーマとする。保育者が、一人一人の子どもの内面を理解しながら信頼関係を築き、幼児の発達に必要な自発的な活動や経験を援助するための基礎的知識を学ぶ。そして、子ども観の多様性を理解し、客観的な視点に立って色々な角度から子どもの実像を理解しようとする方法を身につけることが出来ることを到達目標にする。	◎	◎		◎
生徒・進路指導論(初等教育)	2	3	秋	生徒・進路指導論は、生徒指導、キャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、キャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付けるものである。この授業では到達目標を次のように設定している。 (1)生徒指導の教育課程上の位置付け及び意義や重要性を理解するとともに、その方法原理及び生徒指導体制を理解する。 (2)すべての児童を対象とした積極的生徒指導の進め方を理解する。 (3)様々な生徒指導上の課題の形態と対応の在り方を理解する。 (4)キャリア教育の教育課程上の位置付け、意義や重要性を理解するとともに、その原理及び指導体制を理解する。 (5)ガイダンスの機能を生かしたキャリア教育の意義や留意点、キャリア・カウンセリングの考え方や実践方法を理解する。	◎	◎		○
教育相談の基礎(初等教育)	2	4	秋	初等教育の現場で、子どもの相談や保護者の相談に応じられるようになる。到達目標は、次の3点である。1. 教育相談の重要性を理解し、教育相談に必要な基礎的知識と態度を習得することができる。2. 子どもの抱える背景や行動問題について理解できるようになる。3. 子どもへの援助的な対応について理解できるようになる。			○	◎
教育実習指導	2	3	春	1. 教育実習に対して、明確な目的意識や課題意識を持つ。 2. 教材研究、幼児・児童の理解など、教育実習生として必要な知識、技術を習得する。 3. 教育実習生として必要な授業・保育等の実践的な指導力を身につける。 4. 教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで教育実習に参加する意欲を高める。	◎	◎	◎	◎
教育実習Ⅰ(初等教育)	2	3	秋	1. 幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 2. 指導教員等の実施する授業を視点をもち観察し、事実即して記録することができる。 3. 教育実習校(園)の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。 4. 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。	◎	◎	◎	◎
教育実習Ⅱ(初等教育)	2	3	秋	1. 学習指導要領・幼稚園教育要領及び児童・幼児の実態等を踏まえた適切な学習指導案・指導案を作成し、授業・保育を実践することができる。 2. 学習指導・保育に必要な基礎的技術(話法、板書、学習・保育形態、授業・保育展開、環境構成等)を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。 3. 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 4. 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童・幼児と関わることができる。	◎	◎	◎	◎
教職実践演習(幼・小)	2	4	春	1. 教員として必要な資質能力を有機的に統合して、教育者として実践的な能力を身につける。 2. 教育の現実的課題について理解し、自らの意見を主張できるようになる。 3. 各教科・領域の指導法(指導計画策定・教授法の習得)についても深く理解し教育現場で実践できるようになる。	○	◎	◎	◎
介護等体験の研究	1	2	秋	介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。		△		△

保育・子ども教育領域

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
外国語活動	2	3	春	小学校で初めて外国語に触れる機会を持つわけであるから、これから中学・高校に進み英語を習得させるにあたって重要な、外国語で話すことは楽しいと思わせることに重点を置く。そのため比較的容易に習得できる単語をまず習得させ、ゲームなどを通じて実践的に定着させるような授業を行うやり方を一緒に考えていきたい。こういう授業なら興味を持ちながら外国語を学んでもらえるのではないかと方法を限られた単語や言い回しを使って工夫することをテーマとしたい。			◎	○
子ども総合演習Ⅰ	1	1	春	大学における学びの意義を理解し、自主的に学ぶ態度と能力を涵養することをテーマとする。受講により「授業を聴く・ノートをとる力」、「文献資料を読んでまとめる力」を養い、学修の基礎的リテラシーを修得することを到達目標とする。	○	◎	◎	◎
子ども総合演習Ⅱ	1	1	秋	大学における学びの意義を理解し、自主的に学ぶ態度と能力を涵養することをテーマとする。「子ども総合演習Ⅰ」における基礎的学修を踏まえ、レポートを作成し、プレゼンテーションをおこなうことを到達目標とする。	○	◎	◎	◎
子ども総合演習Ⅲ	1	3	春	子ども総合演習Ⅲは教職全般に関する科目であり、履修により児童等を指導するための方法及び技術を身につけることができる。本演習では、教育場面における諸課題に対する理解力と対応能力の涵養を到達目標とする。	○	◎	◎	◎
子ども総合演習Ⅳ	1	3	秋	本演習の目的は保育者・小学校教諭に必要な音楽知識・技能の向上を目指すことにある。具体的には音楽理論「楽典」の理解を深めることを基礎として、音楽技能の向上のために音楽理論を実際の音に結びつける訓練として、「ソルフェージュ」、「歌唱法」、「鍵盤演奏法」、「弾き歌い」等による学修を行うとともに、音と体の動きを結びつけたリズムを中心とした訓練法である「リトミック」学修を行う。	○	◎	◎	◎
子ども総合演習Ⅴ	1	4	春	幼稚園教諭・小学校教諭に必要となる具体的な運動技能・知識および実践力の獲得を目指すとともに、活動を通して自信の体力の向上も目指す。また、学校体育の究極的目標である生涯スポーツを見据え、児童の総合的なスポーツライフを設計・援助できる力を身につけることを目標とし、学校教育における運動・スポーツに関して総合的な学びを行う。具体的な内容としては、生涯スポーツと学校体育、示範の技能について、示範の方法について、体づくり、運動技能の獲得過程(スモールステップ)などのトピックについて演習を中心として講義を進める。	○	◎	◎	◎
里山総合演習Ⅰ	1	1	春	里山というフィールドでの様々な体験学習を通して、人や自然に対する柔らかな感性を身につけること、また、社会や教育・保育現場での様々な課題に対して、創造力を発揮して確実に解決していくことが出来る実践力の養成を目的とする。本演習を受講することにより、1.状況対応能力の修得、2.感性・創造力の養成、3.体力・運動能力の向上、4.相互関係性の育成を行うことができる。	○	◎	◎	◎
里山総合演習Ⅱ	1	1	秋	里山というフィールドでの様々な体験学習を通して、人や自然に対する柔らかな感性を身につけること、また、社会や教育・保育現場での様々な課題に対して、創造力を発揮して確実に解決していくことが出来る実践力の養成を目的とする。本演習を受講することにより、1.状況対応能力の修得、2.感性・創造力の養成、3.体力・運動能力の向上、4.相互関係性の育成を行うことができる。	○	◎	◎	◎
里山総合演習Ⅲ	1	2	春	里山というフィールドでの様々な体験学習を通して、人や自然に対する柔らかな感性を身につけること、また、社会や教育・保育現場での様々な課題に対して、創造力を発揮して確実に解決していくことが出来る実践力の養成を目的とする。本演習を受講することにより、1.状況対応能力の修得、2.感性・創造力の養成、3.体力・運動能力の向上、4.相互関係性の育成を行うことができる。	○	◎	◎	◎
里山総合演習Ⅳ	1	2	秋	里山というフィールドでの様々な体験学習を通して、人や自然に対する柔らかな感性を身につけること、また、社会や教育・保育現場での様々な課題に対して、創造力を発揮して確実に解決していくことが出来る実践力の養成を目的とする。本演習を受講することにより、1.状況対応能力の修得、2.感性・創造力の養成、3.体力・運動能力の向上、4.相互関係性の育成を行うことができる。	○	◎	◎	◎
演習Ⅰ	1	3	春	対人援助の基礎と実際をテーマとして、様々な環境で生活する子どもの成長発達への援助について学ぶことにより、子育て・子育て支援の理解を深め、実践力の基礎を養うことができる。		◎	△	○
演習Ⅱ	1	3	秋	対人援助の基礎と実際をテーマとして、様々な環境で生活する子どもの成長発達への援助について学ぶことにより、子育て・子育て支援の理解を深め、実践力の基礎を養うことができる。		◎	△	○
演習Ⅲ	1	4	春	対人援助に関する種々の理論について学ぶと共に、子ども福祉現場における援助の実際を理解することをテーマとするが、受講により具体的な援助方法を修得し、成長発達への援助者としての専門性や実践力を身につけることができる。	○	◎	△	
演習Ⅳ	1	4	秋	対人援助に関する種々の理論について学ぶと共に、子ども福祉現場における援助の実際を理解することをテーマとするが、受講により具体的な援助方法を修得し、成長発達への援助者としての専門性や実践力を身につけることができる。	○	◎	△	
卒業論文	4	4	春～秋	社会福祉・子ども福祉・心理学等の分野から、受講生が各自で研究テーマを選定し、文献調査やアンケート調査、討議等を行うことにより、卒業論文としてまとめることができる。	◎	○		△

総合